

# 2014年度夏の三者総会 議案書

2014年度三者事務局校・首都大学東京

2014年8月5日(火) 13:30

於・原子核三者若手夏の学校 パノラマランド木島平

## 目次

1	2014年度三者センター校（筑波大学）	2
1.1	報告及びご連絡	2
1.1.1	活動報告	2
1.1.2	交通費補助・宿泊費補助について	3
1.1.3	夏の学校アンケートについて	3
1.1.4	基礎物理学研究所 共同利用運営委員会	4
1.2	議案	5
1.2.1	新たな財源の探求	5
1.2.2	Web 広告収入	5
1.2.3	新たな援助団体の探求	7
2	2014年度事務局校（首都大学東京）	8
	[’14/7/31]	
2.1	活動報告	8
2.2	三者役職校選定（承認）	8
2.3	三者役職校選定法の見直しについて	9

# 1 2014年度三者センター校（筑波大学）

文責：宮本貴也（筑波大学）

## 1.1 報告 及び ご連絡

### 1.1.1 活動報告

2014年度三者センター校は、以下の団体に対して経済的援助あるいは協賛を依頼し、その承認を得ました。

- 援助

- － 基礎物理学研究所 500,000 円
- － 素粒子論グループ 450,000 円
- － 原子核談話会 原子核研究夏の学校特集号出版費

- 協賛

- － RCNP（核物理研究センター）
- － 理研仁科センター
- － 高エネルギー研究者会議
- － 日本物理学会

例年同様、上記の資金的援助は参加学生への旅費補助に充てました。

### 1.1.2 交通費補助・宿泊費補助について

原子核三者夏の学校では出来るだけ多くの学生が参加できるように、経済的余裕が無い学生に対して援助を行っています。このとき、夏の学校にて発表を行う「発表者」と発表を行わない「一般参加者」において次のように援助の項目が異なります。

- 発表者への補助項目
  - － 宿泊費
  - － 交通費
- 一般参加者への補助項目
  - － 交通費

夏の学校からの援助はあくまで『どうしても財源が無い』方のみに行います。これらの援助と大学や自らの財源（学振など）からの援助を同時にもらうことは”犯罪”にあたりますので、注意してください。ただし例外として、夏の学校以外の援助と項目が異なる場合のみ援助は可能です。

### 1.1.3 夏の学校アンケートについて

今年度の夏の学校では、これまで紙面で行っていたアンケートを Web 上で行うことにしています。この理由としては、アンケート集計の負担を減らすことや回答率を上げることです<sup>1</sup>。夏の学校の今後にとって大きな参考になりますので、みなさん是非ご協力をお願いします。

アンケートフォームは夏の学校ホームページ上に用意しますので、夏の学校中でも、終わった後でも、いつでもご記入ください。

---

<sup>1</sup>昨年度の紙面でのアンケートでは全参加者 286 人中回答者が 184 人で、回答率はおよそ 64 %であった

#### 1.1.4 基礎物理学研究所 共同利用運営委員会

原子核三者若手夏の学校が毎年資金的援助を頂いている京都大学 基礎物理学研究所（以下、基研）は、湯川秀樹博士のノーベル物理学賞受賞を記念して1953年に日本で初めて「全国共同利用研究所」として設立されました。共同利用とは、全国の研究者が基研を利用して研究会などを行うことができるシステムです。夏の学校も、この共同利用により資金的援助を頂いています。このシステムを運用するために、毎年基研では全国の研究者をスタッフとして招いた共同利用運営委員会を開いています。この会議において、“全国の若手研究者が基研に求めることを知りたい”という名目で昨年度から夏の学校の代表者が出席することになりました。今年度は原子核三者・物性・天文・生物物理の夏の学校の代表が参加し、議論を交わしました。

その際、原子核三者では“基研で行われる研究会を全国の学生により認知されるために、直接情報を発信できるメーリングリストがあると良い”という議案を挙げました。この議案に対し、基研のスタッフからは“基研研究会の情報はsg-1（素粒子論グループのメーリングリスト）により発信しており、各大学ではsg-1を学生に流すシステムがあるが、確かにsg-1のメールが届いていない学生もいるという話も聞く”というご返答を頂きました。

そこで、『学生の中でsg-1のメールが届いていない方がどのくらいいるか』をまず調査すべきであるため、夏の学校アンケートにこの質問も用意しました。来年度の共同利用運営委員会にてこの結果を報告したいと考えているため、是非ご協力をよろしくお願いいたします。

また、来年度の共同利用運営委員会でも“全国の若手研究者が基研に求めること”についての議案を提出するため、『このような研究会があって欲しい』、『共同利用でこのような企画をやりたい』など意見がありましたら是非ご回答をよろしくお願いいたします。

## 1.2 議案

### 1.2.1 新たな財源の探求

原子核三者若手夏の学校では基礎物理学研究所及び素粒子論グループから経済的援助を頂いておりその予算を参加学生への旅費補助に充てていますが、それぞれの機関の予算の変動によりこれらの援助が減額する可能性も十分にあり得ます<sup>2</sup>。夏の学校に参加する学生への旅費補助をより充実したものにするために、新たな財源の探求を行う必要があります。このことに関して、昨年までに以下の2つの議論がなされてきました。

(I) Web ページ上に広告を掲載することにより広告費収入を得る

(II) 新たに援助団体を探す

これらの議案に対して、今年度はその修正案を提出いたします。

### 1.2.2 Web 広告収入

原子核三者若手のホームページは基研の Web サーバをお借りして運用しています。Web 広告収入を得るためには夏の学校ホームページ上に広告を掲載する必要がありますが、基研によると「大学が提供している施設・サービス等を利用した収入が大学ではなく第三者に入るという点が認められない。(大学が提供するものには、運営費交付金等の税金が使用されており、それにより第三者が収入を得るということが問題)」ということであったため、で現在のホームページ上では Web 広告による収入を得ることが出来ないことが分かりました。これらのことをふまえて、昨年度の三者総会にて前センター校より新たに有料のレンタルサーバを借りることが提案され、承認されました。

そこで今年度は実際に Web 広告収入を得ている物性若手夏の学校にご連絡し、具体的にどのように広告収入を得ているのかの質問を行いました。連絡の結果、物性若手夏の学校では以下のような点で原子核三者夏の学校と違う点が分かりました。

---

<sup>2</sup>実際に昨年度夏の学校の基研からの援助金は5万円の減額となりました。

(1) 原子核三者では毎年各役職を全国の大学がローテーションで受け持つようになっていることに対し、物性若手では毎年各役職を務めるスタッフを（大学の枠は関係無しに）募集することになっている。

(2) 原子核三者では三者準備校、素粒子、原子核、高エネルギー各パートがそれぞれ Web ページを作成しているのに対し、物性若手では Web ページを作成する役職が独立に存在する。

上記のことより考えられることは、物性若手では毎年公募によりスタッフを集めているため比較的 Web サーバに詳しい学生が集まりやすく、サーバを管理しやすい体制が整っているということでした。一方原子核三者では毎年各大学がローテーションで役職に就くため、サーバ管理に詳しい学生がいない年が出てくる可能性が考えられます。

以上より、現段階では Web 広告を用いた収入を得ることは難しいと考えられました。このことをふまえて、今年度は次のような議案を提出致します。

「Web 広告収入を得るために新たに有料レンタルサーバを借り、それを管理する役職を設ける。また、全国の大学よりサーバ管理に詳しい学生を役職に就けるようなシステムを作成する」

これには次のようなメリット、デメリットが考えられます。

- メリット

- － Web 広告収入が得られる
- － Web サーバの管理が容易になり、引き継ぎもしやすい

- デメリット

- － 新たな役職を設けるため、運用のための学生数を多くする必要がある
- － サーバレンタル料がかかるので、軌道に乗らないと赤字になる恐れもある

### 1.2.3 新たな援助団体の探求

現在資金的援助を頂いている基礎物理学研究所・素粒子論グループ以外の新たな団体から援助を頂く案に関しても、昨年度の三者総会にて承認されました。今年度は実際に夏の学校のような研究会に対し援助を行っている団体を探求しましたが、ほとんどの団体は個人の研究者への資金的援助であり、夏の学校のような研究会への援助は少ないものでした。さらに、研究会への援助を行っている団体は（基研以外は）プラズマ分野や宇宙分野などと、対象とする分野が異なるものでした。このため、夏の学校に資金的援助をして頂くためには団体が用意した申請書ではなく、直接メールにてご連絡をする必要があると考えられます。以上のことより、今年度は議案として夏の学校への援助を申請する具体的な以下の手順を提出いたします。

- (1) 新たに援助をして頂く団体の候補を決定する。
- (2) 候補の団体の代表（もしくは事務局）にメールにて連絡し、可否を頂く。この際に、直接プレゼンテーションを行う機会を設けて頂く可能性もある。
- (3) 直接プレゼンテーションを行う場合は、援助を頂く団体に赴きプレゼンテーションを行う。
- (4) 援助の可否、具体的な援助額（予定では20万円）を決定する。
- (5) 援助金をセンター校の口座に振り込む日程を決定する。

これには次のようなメリット、デメリットが考えられます。

- メリット

- － もし援助を受けられれば、一度にまとまった収入を得ることができる

- デメリット

- － 援助申請は毎年センター校が行うので、時間的・金銭的な負担がさらに大きくなる（旅費が出ない可能性がある）

申請を行う援助団体としては、現段階ではKEKを予定している。

## 2 2014年度事務局校(首都大学東京) [’14/7/31]

文責：小原 怜

### 2.1 活動報告

本年度の三者事務局校の活動を以下に報告します。基研サーバーのトラブルによりHP更新が遅れましたが、ほぼ例年通りになっております。

- 2014年8月...2013年度事務局校(新潟大学)から引き継ぎ
- 2014年8月...YONUPA-HP,YONUPA-ML管理引き継ぎ
- 2014年10月...秋の三者総会(於YONUPA-ML)の運営
- 2014年11月...春の三者総会のためのインフォーマルミーティングを申し込む
- 2014年3月...春の三者総会(於東海大学)
- 2014年4,5月...YONUPA-ML更新
- 2014年6,7,8月...時期役職校選定
- 2014年8月...夏の三者総会(於三者若手夏の学校)の運営

### 2.2 三者役職校選定(承認)

三者役職校は20のローテーション校(内5校は名簿校のみ担当)が持ち回りで担当しています。2014年度三者事務局は2016年度の事務局校と名簿校、および2017年度のセンター校と準備校を選定することになっております。過去の担当履歴ならびに学生の人数を考慮した結果、2016年度の事務局校と名簿校については以下の大学の皆さまに役職校の担当をお願いし、引き受けていただけることになりました。そこでこれらの選定について、三者若手の皆様の承認をお願い致します。また準備校については1大学のみで担当できる大学がなく、現在複数の大学が合同で準備校を行える様に調整中のため、センター校と併せて未定となっております。この2つの役職校については、今後決まり次第メーリングリスト上で承認を取らせて頂きます。



年度	役職	大学名
2016	三者事務局校	総研大学
2016	三者名簿校	早稲田大学
2017	三者センター校	未定
2017	三者準備校	未定

### 2.3 三者役職校選定法の見直しについて

現在三者役職校は20のローテーション校が持ち回りで担当しているが、ローテーション校の学生数が全体的に減少しているように思われる。よって以下の二つを提案する。

- (i) 各研究室の過去5年間の学生数を調査する
- (ii) (i)の結果を踏まえ、新たな役職校の選定法を議論し作成する（新たなローテーションの作成や、有志による夏の学校運営など）

(ii)については今後の方針を決めるもので、新たな選定法を決めるものではありません。